

〔十〕編 集 後 記 〔十一〕

『年報』の発行も、早いもので第九号を数えるに至りました。第九号は、一九九二年の『遠山茂樹著作集』の完結後から計画され九三年三月から九四年四月まで『京浜歴史研究会報』に連載された『遠山史学の世界』の転載が中心となりました。

会員ひとりひとりが『遠山茂樹著作集』を各一卷づつ受け持ち、書評なり紹介なりを毎月『会報』に連載するという計画は、それから約一年にわたって、担当した会員諸氏を苦しめることとなりました。しかし遠山先生の、維新史研究や自由民権研究などでの実証的な研究から、歴史教育・実践論、状況への発言まで、その幅広さと、歴史研究者としての、歴史学の社会的有効性に対する不断の追及は、十分学ぶに足る、否、学ばなければならぬものだと感じさせられました。そしてそのことが『年報』編集にあたって、『会報』にはらばらに載っている『遠山史学の世界』を、是非通観できるようにしたいという結果になったと思います。

『会報』からの転機にあたっては、約半数の原稿には手が入りました。とはいえできあがったものは各人各様。これで壮大な『遠山史学の世界』に少しでも迫ることができたのか。大方の叱正を乞う次第です。

奥田論文は、地租改正の提議者として知られる神田孝平の言説の分析を通して、従来の研究が捉え得ていない神田孝平の地租改正論の問題点を当てたものです。

本年一月を以て本会は、ついに結成十周年を迎えました。本年は記念行事も考えなければならぬでしょうし、次号年報はいよいよ第十号記念号になるでしょう。その意味からも研究成果のまとめとということを考えて、いよいよこれからという感慨を持っていきます。

(文責 植山 淳)

京 浜 歴 史 科 研 年 報 第九号

発行日 一九九五年二月一九日
編集・発行

京 浜 歴 史 科 学 研 究 会
〒233 横浜市港南区港南台一―一九―四〇七

奥田晴樹方 TEL〇四五―八三二―五二七七
(郵便振替口座) 〇〇二七〇―八一―五五三五

印刷 合資会社 横 浜 大 氣 堂
横浜市中区真砂町四―四〇